

## 性犯罪が起きにくいまちの環境づくり推進事業調査結果概要

- ・調査実施日 平成 23 年 1 月 31 日～平成 23 年 2 月 24 日
- ・調査地区 県内13校区の道路、公園、駐車場等  
(福岡地域4校区、北九州地域3校区、筑豊地域3校区、筑後地域3校区)
- ・調査委託先 NPO法人福岡県防犯設備士協会(NPOとの協働事業として実施し、防犯設備士や大学生ボランティアを活用)

### 《調査結果概要》

#### 調査校区に共通する現状と改善方策

##### 1 防犯灯及び照度

- 現状・・・多くの箇所で防犯対策上必要最低限と規定される照度を下回っていた。
- 改善方策・・・防犯灯の新設や防犯灯のランプ交換等による照度確保、住民に玄関灯を朝まで点灯する「一戸一灯」運動の普及が望まれる。

##### 2 防犯カメラ

- 現状・・・確認できたのは、個人所有の駐車場内2箇所。  
公園や通学路などで防犯カメラの設置は確認できなかった。
- 改善方策・・・防犯上有効であるので、設置を拡大していくことが望まれる。

##### 3 ボランティア活動

- 現状・・・学童下校時の住民パトロールなどが行われている地域は多数あるが、部活動で帰りの中学・高校生や仕事帰りの女性が一人で歩いているのが見かけられ、活動時間帯と必ずしも一致していなかった。
- 改善方策・・・地域と警察署等とが情報を共有し、さらに連携した活動が望まれる。

##### 4 子ども 110 番の家

- 現状・・・ほとんどの校区で「子ども 110 番の家」のステッカーが設置されていたが、見えにくいものや老朽化しているものが散見された。
- 改善方策・・・①ステッカーの定期的点検が必要。  
②設置している家の住民が緊急時に適切な対応をとることができるかなど、再確認が必要。

##### 5 地域・個人でできる防犯活動

個人の防犯意識を高めると同時に、地域住民、ボランティア団体が自主的に行う防犯活動も重要。

(活動例)

- 防犯セミナー・防犯教室
- 不審者情報等の活用
- 防犯パトロール・挨拶・声かけ運動 など